理学の本棚

09

「コンピューティング－原理とその展開－」

荻谷　昌己（情報理工学系研究科コンピューター科学専攻　教授・情報学科兼担），川合　慧（放送大学　教授）

本書は，放送大学の同名の大学院科目のための教材として作成された。当然ながら，コンピューティング（計算）は，計算機科学や情報科学の基礎であるとともに目的でもある。本書は，大学院科目であるがゆえに，計算機科学や情報科学の最先端の研究動向に触れつつも，放送大学であるがゆえに，必要に応じてコンピューティングの基礎概念に関して解説している。全15章の各章において，各分野の最先端を走る研究者を著者の川合と萩谷が訪れインタビューを行い，ご自身の研究も含めて，各分野の研究動向やその目指すところを，できるだけ平易に解説していただいた。各章ごとに，インタビューの内容をもとにして，解説の文書を作成し，さらに，川合と萩谷が，インタビューの内容を理解するために必要となる基礎概念の解説を追加した。結果として，計算機科学や情報科学の全分野を網羅しているわけではないが，相当に多くの分野の解説を一冊に押し込めることができた。たとえば，第4章では，京都大学数理解析研究所の照井一成准教授に，計算と論理の関係を非常にわかりやすく解説していただいている。ゲーデルの不完全性定理の限界をある意味で超えたゲンツェンの無矛盾証明についてのくだりは，あたかも，その時代のゲンツェンの奮闘を目の前で見ているような錯覚さえ感じる物語となっている。また，最終章では，慶応大学環境情報学部の徳田英幸教授が，ユビキタスコンピューティングに始まり，シンギュラリティも含めて，コンピューティングの未来を語っていただいている。たとえば「あなたはbeing naturalですか？あなたはenhancedですか」という下りがあるが，その意味は読んでからのお楽しみである。計算機科学や情報科学を目指す方も，そうでない方も，目を通していただきたい。ついでに，2015年度から始まる放送も聞いていただければ幸いである。

川合慧・萩谷昌己「コンピューティング－原理とその展開－」（放送大学大学院教材）ＮＨＫ出版（2015年３月発行予定）
ISBN978-4-595-14056-3　C1355

理学部の古い文書の再発掘

石田　貴文（生物科学専攻　教授）

1970年代初期の「理学部広報」に「理学部ところどころ」という，各施設や秘蔵のお宝を紹介する連載がある。その中に，戦前戦後を通し36年の長きに亘り理学部に奉職され，理学部の「生き字引」とよばれた吉野誠治事務長の「古い文書から」という，明治時代の理学部に関する記事がある。今回はそれらを再発掘し，新たな情報と併せ紹介したい（吉野氏の記事が掲載されている理学部広報の巻号を記した）。

1886年（明治19年）東京帝國大学理科大学は7学科を有し，教授12名（外国人2名含む），助教授6名，講師3名に30名の学生が在籍していた（3巻10号）。1888年（明治21年）には，外国人教師は姿を消し，10名の専任教授と3名の兼任教授が在籍している（3巻3号に一覧）。1884年(明治17年)8月に「乗馬飼養令」(月俸100円以上の官吏は馬を飼育すべし）が発令されたことを反映してであろう，1888年（明治21年）には，専任教授10名に馬があてがわれている。ただ，上意下達の急な飼養令なので，落馬・怪我多発し，日曜日に騎兵士官などによる「教習」もあったそうだ（朝野新聞記事をもとに4巻1号に掲載)。もっとも乗馬飼養令は1889年(明治22年）に廃止されるのだが，当時の世相を知る貴重な記載である。

温故知新
― 第7回 ―

米離れの昨今，米価で換算するのは心許ないが，1887年（明治20年）の米価格は1俵1円46銭で，今日のブレンド米の価格で換算すると，理科大学長（学部長相当か）の年収は2千万円強となる（カレーライス換算では約3千万円)。2013年（平成25年度)の東大総長の年俸は22,583千円，その多寡は各自ご判断いただきたい。

理科大学専任教授・飼養馬一覧（3巻3号より抜粋）